



令和3年9月21日

市政記者クラブ 様

環境局地域環境対策部地域環境対策課  
主幹(環境影響評価・化学物質) 堀田(972-2676)  
有害化学物質対策係長 中村(972-2677)

### 土壌・地下水汚染の報告について

下記のとおり、土壌・地下水汚染の報告がありましたのでお知らせします。

#### 記

1 報告者 学校法人 大同学園

2 報告日 令和3年9月16日

3 報告の根拠 環境保全条例

#### 4 報告の概要

(1) 対象地名 大同大学 白水校舎

(2) 所在地 名古屋市南区白水町40番

(3) 対象地の概要 大学(昭和50年頃から現在まで)  
5,713.88㎡(第1種住居地域、第2種住居地域)

#### (4) 汚染状況

項目※1	汚染物質	基準超えの濃度範囲	基準に対する倍率	基準	超過区画数 /調査区画数※2
土壌溶出量調査	ふっ素及びその化合物	0.9~3.4 mg/L	1.1~4.3倍	0.8 mg/L以下	6/7
地下水調査	ふっ素及びその化合物	0.9~1.6 mg/L	1.1~2.0倍	0.8 mg/L以下	5/7

※1 土壌溶出量は土壌に含まれる汚染物質が地下水に溶け出す量を示します。

※2 調査対象地における平面図上で、試料採取によって評価した区画数を示します。

#### 5 本市の対応

報告者に対し、適切な土壌・地下水汚染対策を実施するよう指導を行います。

また、必要に応じて周辺の井戸水の水質調査を行うとともに、念のため、周辺井戸所有者に対して井戸水を飲用しないよう指導します(飲用に使用している水が基準に適合している場合を除く)。

## <参 考>

大同大学白水校舎において過去に判明した土壤汚染

	汚染物質	基準超えの 最大濃度	基準に対する 倍率	基準
土壤 溶出量 調査	ふっ素及び その化合物	1.9 mg/L	2.4 倍	0.8 mg/L 以下

### 基準を超過した物質の毒性について

#### 【ふっ素及びその化合物】

急性毒性： NaF を 6 mg/日以上摂取し続けていると、ふっ素症となり、体重減少、悪心、嘔吐、便秘等をきたす。SiF<sub>4</sub>では、胃軟化症、神経痛等を起こす。

一般成人が一度に 100 mg 以上摂取すると、腹部の激痛、嘔吐、悪心を起こし、2,500 mg 以上の摂取で中毒死する。

\*100 mg は、今回の土壤溶出量の汚染物質濃度 (3.4 mg/L) では、水 29 L に、地下水の汚染物質濃度 (1.6 mg/L) では、水 63 L に含まれる量になります。

慢性毒性： ふっ化物で中毒したラットの場合、腎臓における脂肪酸酸化酵素活性が著しく減少し、また、肝臓中の窒素及び脂肪含量が減少することが見い出されている。また、ふっ素中毒では、炭水化物の代謝障害も見られている。

飲料水等からふっ素を長期間過量に摂取した場合、飲料水のふっ素濃度2 ppm以上で斑状菌を生じ、8 ppm以上で骨硬化症となる。ふっ素には動物実験で発がん性を示すデータがない。

出典「改訂4版水道水質基準ガイドブック」「2012年版 化学物質ファクトシート」  
(下線部分は、名古屋市において挿入しました。)